

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191300029		
法人名	医療法人やわらぎ		
事業所名	グループホーム共栄の郷(いぶき)		
所在地	北広島市共栄町4丁目11-1		
自己評価作成日	令和5年3月16日	評価結果市町村受理日	令和5年4月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0191300029-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成22年4月に開設して以降、地域の皆様方に多大なご理解とご協力を頂きながら、今年度で12年目を迎えることが出来ました。現在は、感染予防対策により自粛していますが、地域の催し物や会議への参加、幼稚園、小中学校との交流学習の受け入れ等、様々な活動を通じて地域に根差した事業所として取り組み、また当事業所としての役割を模索しながら、地域における認知症ケアの拠点となり得る事業所を目指し努めています。
入居者様の平均介護度は市内の他の事業所と比較しても高く、入居者様の中には数名開設当初から入居して頂いてる方もいます。特に、看取りに関しては力を入れ取り組んでおり、今までに3名の方を施設でお看取りし、現在も看取りを行っています。入居してからやがて訪れる最期のその日までその方らしく過ごして頂く為に、その方の人生を意識し、寄り添いながら職員一同日々支援を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム共栄の郷」は、JR北広島駅から車で数分の幹線道路に面した住宅地に立地している2ユニットの事業所である。居間や食堂は大きな窓から光が注ぐ開放感のある造りで、廊下も広く車いすの利用者も移動がしやすくなっている。感染症流行前は幼稚園の運動会を見学したり施設長が小学校の認知症サポーター養成講座の講師として出向くなど、日頃から子供たちとの交流を深めている。家族意見の反映では、毎年アンケートを実施して家族の率直な思いや改善点を聞き取り運営やケアに活かしている。また、家族の疑問や相談にも的確に答えられるように日頃から全職員で利用者の情報を共有しながら一人ひとり人の思いに寄り添ったケアに努めており、その姿勢は家族の安心感と信頼につながっている。ケアマネジメントでは、介護計画の「具体的計画内容」に沿って「生活日誌」に記入するとともに、変化や課題があればその都度「生活援助計画」の第2表の評価欄に記入して介護計画の更新に活かしている。医療法人運営のため通院支援や看取りへの取り組みも充実しており、家族や本人の意向に沿って丁寧な対応が行われている。施設長と管理者は、職員の意見や提案に耳を傾けて働きやすい職場環境の整備に努めており、長年努めている職員も多く、より良いケアが継続して行われているグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(いぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を意識したケアについての勉強会をMT内で開くほか、各ユニットの掲示板や職員のネームプレートの裏側に理念が記されたものを携帯しておく等、日頃から目の届く場所に示し実践に繋げている。	理念の中に「地域社会の一員として」という、地域密着型サービスを意識した文言が含まれている。パンフレットや重要事項説明書にも記載している。職員は各自で理念を確認し、各利用者に応じた適切な支援方法も理念に沿って検討している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染予防対策により現在自粛となっているが、催し物や地域会議への参加、幼稚園、小中学校との交流学习に認知症カフェ等、様々な機会を通じて、地域交流を図っている。	利用者と地域との交流はなかったが、職員が地域住民と挨拶したり近隣の方に除雪を手伝ってもらっている。民生委員の方に花の差し入れを受けたこともある。施設長が高齢者対象の地域カフェに協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染予防対策により現在自粛となっているが、認知症カフェや小中学校の交流学习等、地域会議への参加を通じて、事業所の特色を活かしながら、認知症への理解が地域全体で深めて頂けるよう発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス流行により、現在、書面での報告となっているが、ご家族様をはじめ、地域住民の方々や市の職員、包括や福祉委員の方々等のご協力のもと、当事業所の取り組みや状況報告を通じてサービス向上に繋げている。	現在は書面会議を開催し、活動報告や事故報告、家族アンケート結果などを伝えている。今後は役立つ情報を議事録に添付したり、対面での開催時はテーマを記載した案内を送付し、参加できない家族の意見や質問も会議に反映させる意向である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での報告書の他、日頃から電話やメール等を通じて相談させて頂き、運営において丁寧なアドバイスを戴ける関係性が出来ている。	管理者は運営推進会議の議事録を持参したり、介護保険の更新やおむつサービスの手続きなどで市役所を訪れている。福祉課の担当者とは、普段から利用者の情報交換をされていていつでも相談できる関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の休憩室に、身体拘束に関する具体例についての貼り紙を掲示し、普段から目につくような環境を作り、職員の意識を高めている。また、身体拘束に関する研修の参加や、事業所内での勉強会を行い、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。玄関の施錠については、交通量の多い道路に面しているため、他事業所と共有し行っている。	「禁止の対象となる具体的な行為」を記載したマニュアルを整備して年数回勉強会を行っているが、具体的な禁止行為11項目を確認する機会は少なくなっている。法人合同で毎月委員会を開催し、議事録で情報共有している。玄関は安全面に配慮して日中も施錠しているが、閉塞感を与えないように柔軟に対応している。	年1回は、全職員で「禁止の対象となる具体的な行為」について再確認する機会を設けるよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する事業所内での勉強会の開催や研修への参加により、職員が自身の対応を振り返る機会を設け、虐待に対する意識を高め、見過ごされることがないように努めている。		

グループホーム共栄の郷

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(いぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用して支援に繋げている利用者様もあり、また研修等で権利擁護に関して学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や契約内容に変更があった際には、都度、運営規定や重要事項説明書等を用い、分かり易く説明出来るよう対応しており、疑問や不明点等があった際には、しっかりとお答えし安心して利用して頂けるよう取り組んでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所の入り口にご意見箱を設置する他、年に1度アンケート調査を行い、事業所に対するご意見等を頂く機会を設けている。アンケート結果は職員間で共有し、今後のサービスに反映している。また、運営推進会議にてご家族様や運営推進委員の方々にも報告を行っている。	毎年アンケートを実施している。面会時や電話でも利用者の様子を伝えて要望や意見を聞き取り、連絡ノートや支援経過に記録している。更に情報共有できるような記録方法の検討も考えている。毎月「共栄の郷通信」を発行し、誕生日にはアルバムをプレゼントしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングの他、年に2回の個人面談を行い職員個々の職務や運営に関する意見を聞く場を設けている。また、現場業務にも積極的に入り、日頃から職員と気兼ねなく意見交換が行える環境が整っている。	施設長や管理者は、普段から話をして勤務時間を調整したり利用者の状況を見ながら座る位置を変えるなど、環境整備にも職員の意見や提案を反映させている。職員は委員会や毎月の行事などを担当している。施設長との面談も実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事とプライベートの切り替えができるよう、それぞれの生活スタイルに合った勤務体制や給与水準に関する相談を日頃から行い、調整を図っている。また、各職員の得意分野に目を向け、それぞれが活躍できる場を設け、仕事に対するやりがいに繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内、外部研修の参加を職員に対して積極的に働きかけ、シフト調整や法人での費用負担等を行い、受講し易い環境を整えている。また、事業所内での勉強会の開催や日頃から各職員の力量を見極め、様々な経験を通して日々成長できる機会を持ち、育成にも努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染予防交流を図っている。特に、市内のGHとは定期的に情報や意見交換を行い、それぞれの事業所で抱えている悩みや相談事を共有し、互いにサービスの質の向上に取り組んでいる。今後、ZOOMでのリモート会議を予定している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(いぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様と面談を行い、健康状態やADLの確認、現在の困り事などを傾聴した上で事前にスタッフ間で情報共有を行い、安心して入居して頂ける環境を整えている。入居直後もコミュニケーションの機会を多く持ち、関係性が築けるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、ご家族様の不安や心配事を十分にお聞きすると同時に、センター方式の様式をお渡しし、ご本人様の嗜好や生活歴について振り返って頂く機会を持ち、スタッフと情報を共有することで共に支える第一歩としている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談や施設見学の段階で、ご本人様やご家族様の不安や困り事に耳を傾け、最善な選択に繋がるよう、他のサービスを提案を含めアドバイスさせて頂く事もあり、選択の幅を広げた上で、ご本人様やご家族様に自己決定して頂けるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃からご本人様の出来ることを見極め模索し、スタッフと共に生活を送る中で、互いに支え合う関係性の構築に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様にも協力を仰ぎながら、面会時等にはご本人様の好きな物を持参して頂き、入居しても好ましいと思える物事に触れられる環境作りをお願いしている。また、ご本人様がご家族様の事について不安に感じている時は、必要に応じて連絡の機会を設け、ご本人様が安心出来る対応をお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人の方との面会や電話、手紙等関係性が継続できるよう支援に取り組んでいる。感染予防対策により現在は自粛して頂いているが、ご家族様の協力のもと、墓参りやご自宅への外出、外泊等、馴染みの場に出向けるよう支援を行っており、今後、感染状況に応じ再開を検討している。	職場の同僚や仕事関係の方が面会に来たり、手紙や年賀状が届く利用者もいる。職員が支援し、利用者全員が親族に暑中見舞いを出している。携帯電話で友人や家族と話をしている利用者もいる。職員との通院帰りに、渡り鳥を見たり季節の景色を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人様個々の性格や共通性を理解した上で、座席の配置等には気を配っている。また、認知症状の進行により、コミュニケーションが取り難い場合は、スタッフが仲介し関係作りを働き掛けている。		

グループホーム共栄の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(いぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了後も、相談事等があればいつでも対応出来る旨をお伝えし、今迄の関係性が途絶えないよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のケアや関わりを通じ、個々の思いを汲み取りながら支援に繋げている。意思表示が困難な場合には、今迄の生活背景やご家族様からも情報をヒントに、利用者様本位のケアに繋がるよう取り組んでいる。	会話や表情、仕草などから思いや意向を把握し、介護計画作成時にアセスメントシートに記入している。利用開始時に、センター方式シートに家族から情報をもっているが追記や更新は行われていない。	センター方式(B-3)シートを活用して趣味や嗜好などの変化を記入するなど、利用者の現状を確認できるような書面の作成を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面談の他、ご家族様や入居前に利用していたサービスの関係者等から頂いた生活歴や入居までの経緯を共有している。入居してから、ご本人様との会話や若い頃の写真等から今までの生活状況を得よう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月の定期受診の他、日頃の様子や活動状況を観察し、特記事項や気付いた点はプランの評価欄に記入し、職員間で情報共有と把握に努めている。また、気があれば日常的に意見交換も行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	今までの生活歴からご本人様のやりがいや大事にしている事を軸に、日頃のケアでの経過や気付き等を都度、記録やケアプランの評価欄に全職員で記載し、それを基に出た意見やアイデア、また面会時等で得たご家族様からのご意見を反映し、現状に即したプラン作成を行っている。	日々の記録とともに、「具体的計画内容」に沿って変化があればその都度第2表の評価欄に記入している。それを基に3か月ごとにモニタリングを行い、6か月ごとに介護計画を作成している。家族の意向は面会時や電話で確認して第2表に具体的に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	現行のプランで支援を行った上での経過や気付き等を都度、記録やケアプランの評価欄に全職員で記載し、それを基にカンファレンスを開き意見交換で出た情報を集約し、プランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに応じて、必要書類の手続きの代行や買い物、受診支援を行い、心身状態の変化には、主治医や非常勤の看護師、併設事業所の機能訓練士からも協力を仰ぎ、柔軟性を持ち幅広いサービスが提供出来るよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染予防対策により自粛しているが、地域の催し物や小学校、中学校との交流学习の受け入れ等、地域社会と触れ合い、楽しみを持ちながらQOLの向上を目指している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回主治医のもとでの定期受診、また状況が変化した際には24時間体制で指示が受けられる体制が整っている。ご本人及びご家族様の意向を尊重した上で、かかりつけ医以外の受診代行や往診の支援も行っている。	利用者全員が、事業所の支援で協力医療機関に通院している。専門医の受診が必要な場合は、主治医が紹介状を作成して適切な医療を受けられるように支援している。受診記録は個別に記録している。	

グループホーム共栄の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(いぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化や気になる点が見られた際には、かかりつけ医の看護師若しくは非常勤の看護師に相談と指示を仰ぎ、適切な受診支援や処置対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	看護添書や介護添書をもとに情報交換を行い、添書では補えない点は直接、電話等でやり取りを行っている。早期退院に向けて、入院後の経過をこまめに確認し、早期退院に向けて連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の時点で、重度化に対する指針についての説明を行い、入居後はご本人様の体調変化や認知症の進行に応じて、都度、ご家族様に現状報告と今後の方向性について話し合いを持ち、ご本人様とご家族様のご意向を確認した上で対応している。	利用開始時に、「重度化に関する指針」に沿って急変時の支援内容や看取り時の支援方法などを説明している。体調変化に応じて家族と医師、事業所で方針を話し合い、希望に応じて看取りを実施している。近年、2名の看取りも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時に備え、連絡網や入居者様の十分な情報が迅速に提供できるように傷病者情報を用意している。また事業所内で勉強会を開き、実践力を身に付け備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中と夜間を想定した避難訓練を実施し、火災や地震を想定した訓練を併設事業所と共に行っている。コロナ禍以前は、ご家族様、地域住民の方にもご参加して頂き協力体制を築いており、今後、感染状況に応じ参加の要請を検討している。	年2回、昼夜の火災や地震を想定して自主訓練を行っている。感染症収束後は、消防署と地域住民参加の訓練を予定している。防寒対策の備品類整備も進めている。災害時のケア別対応を話し合ったが、危険箇所の確認は最近行っていない。	共用空間や居室内における、地震時の危険箇所について全職員で定期的に確認するよう期待したい。感染症の収束状況を見ながら、救命講習の受講を進めるよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修会や勉強会等で自身の対応を振り返る機会を持ち、利用者様個々の人格を尊重し、声掛けや関わり方等相手の立場に立ったケアを心掛け実践している。	接遇研修を行い言葉かけや対応の振り返りを行っている。法人研修でも接遇に関して学んでいる。申し送りは利用者から離れた所で行い、本人の耳に届かないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一方的なサービスではなく、ご本人様とのコミュニケーションを大切にし、食べたい物や飲みたい物、着用した衣類等、ご本人様にご自身で選択できるような声掛けや働きかけを心掛け実践している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先せず、個々のペースで生活が送れるよう、思いや希望に沿った対応を心掛けている。生活歴や今までの習慣にも着目し、支援の参考にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の身だしなみのケア、2か月に1度の訪問美容での散髪を実施している。また、代行で衣類を購入する際は、好きな色や形を考慮した上で購入し、着用時はご本人様に選択して頂き、おしゃれを楽しむ機会を設けている。		

グループホーム共栄の郷

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(いぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食では、入居者様が食べたいメニューを提案。出前の活用やおやつに季節の果物を提供する等、食事を楽しめる機会を設けている。嚥下機能が低下しても食事が楽しめる様、適切な形態を検討し提供できるよう取り組んでいる。	法人の管理栄養士作成の献立を利用し、利用者は盛りつけなどを手伝っている。出前の寿司やオードブル、誕生日はパンやいなり寿司など好みの食事を楽しんでいる。おやつレクリエーションを年に数回行い、パフェやゼリー作りなどを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の嗜好や、嚥下、咀嚼機能に合わせ形態で提供し、必要な水分量、栄養状態の確保に努めている。また、通常の食事で栄養が摂れない方には栄養補助食品や補食を取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に合った、ケア方法や義歯洗浄の管理を行う他、訪問歯科による定期検査や随時、必要に応じた治療を行い、口腔環境の維持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表や普段の状況から排泄パターンを把握し、職員間で状況を共有しながら失敗を減らせるよう努めている。立位が取り難い方に対しては、職員複数名で介助で行い、トイレでの排泄が継続できるよう支援している。	自立している利用者もいるが、日々の記録と排泄表に全員記録している。時間帯に合わせた声かけ誘導や使用する排泄用品を状況に合わせて変更し、排泄の自立へとつなげている。可能な限り布パンツを使用できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の適切な摂取により便秘防止に努めている。必要に応じて主治医により整腸剤等を処方して頂き、排泄表を活用しながら、排便状況に応じて調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の好みの温度や色々な種類の入浴剤を取り揃える等、入浴を楽しめる様配慮している。利用者様全員が週2回以上入浴が行えるよう取り組み、体力的に入浴が困難な方には、ベッド上での全身清拭で対応。同姓介助にも対応している。	毎日午前の時間帯を中心に一人当たり週2回の入浴を行っている。同性介助や入浴順など、希望に沿った入浴支援を行っている。好みのシャンプーや石鹸などがあれば事業所で用意し、入浴剤なども取り揃えており入浴の楽しみになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないよう注意しながら、一人一人の生活習慣や体調等に合わせ、必要に応じて日中、休息時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬情ファイルを作成し、いつでも服薬状況が確認できるようになっている。また、状況変化に応じて職員間で服薬内容を検討し、医師への相談を行いながら、適切な服薬支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の性格や生活背景を活かし日常生活内の役割を提案している。感染予防対策により、なかなか外出が難し状況の為、室内でも楽しめるレクリエーションや誕生会を毎月開催している。		

グループホーム共栄の郷

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(いぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染予防対策により現在、十分に外出が行えていない状況になっている。コロナ禍前は毎年5～9月の期間、毎月外出行事を設けており、今後、感染状況に応じ外出行事を再開していけるよう検討している。	感染症の流行状況を見ながら、近隣の公園にドライブで桜を見に出かけている。普段の外出は受診やごみ捨てなどに限られている。感染症が収束した際には、以前行っていた外食や散歩、ドライブでの外出を行いたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を所持している方はおらず、施設で管理している状況。個人のお小遣いから希望に応じて日用品やおやつを購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ、いつでも電話が出来るような体制を取っている。記念日等にプレゼントや手紙が送られてくる事もある。行事で暑中見舞いを書きご家族へ送る機会を設ける等、手紙のやり取りが出来るよう取り組んでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に共有スペースのリビングは居心地の良い空間づくりに努めており、尚且つ感染症予防対策により換気や消毒に配慮しながら安全な環境作りにも努めている。台所には定期的に衛生チェックが入り、清潔面に十分注意している。	居間は窓から陽が差し込み明るい空間となっている。壁面にはひな祭りや季節の装飾が施されている。エアコンも設置されており、快適に過ごすことができる。廊下は落ち着いた照明の造りになっており、居室前には利用者手作りの作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブルを囲んで皆さんとの会話や活動を楽しんだり、ソファで寛ぎながらテレビを鑑賞したりと思い思いに過ごせる環境となっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、今まで使い慣れた家具や小物等を持ち込み、慣れ親しんだ物に囲まれて生活が送れるよう工夫している。中には旦那様の肖像画を飾っている方もいる。	床頭台が設置されている。筆筒や椅子などの使い慣れた家具やラジカセ、テレビなど好みの物を持ち込んでいる。窓際に生花や植物を飾っている利用者もいる。壁面には誕生日の記念カードなどが飾られており、温かみのある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ニーズに応じ介護用品を活用する等してADLの自立を促す他、フロア内の廊下を利用して歩行訓練を実施。居室前に表札を掛け、トイレは分かり易く表示し個々が認識でき自立した生活が送れるよう工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191300029		
法人名	医療法人やわらぎ		
事業所名	グループホーム共栄の郷(うらら)		
所在地	北広島市共栄町4丁目11-1		
自己評価作成日	令和5年3月16日	評価結果市町村受理日	令和5年4月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0191300029-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成22年4月に開設して以降、地域の皆様方に多大なご理解とご協力を頂きながら、今年度で12年目を迎えることが出来ました。現在は、感染予防対策により自粛していますが、地域の催し物や会議への参加、幼稚園、小中学校との交流学习の受け入れ等、様々な活動を通じて地域に根差した事業所として取り組み、また当事業所としての役割を模索しながら、地域における認知症ケアの拠点となり得る事業所を目指し努めています。
入居者様の平均介護度は市内の他の事業所と比較しても高く、入居者様の中には数名開設当初から入居して頂いてる方もいます。特に、看取りに関しては力を入れ取り組んでおり、今までに3名の方を施設でお看取りし、現在も看取りを行っています。入居してからやがて訪れる最期のその日までその方らしく過ごして頂く為に、その方の人生を意識し、寄り添いながら職員一同日々支援を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(うらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を意識したケアについての勉強会をMT内で開くほか、各ユニットの掲示板や職員のネームプレートの裏側に理念が記されたものを携帯しておく等、日頃から目の届く場所に示し実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染予防対策により現在自粛しているが、自粛前は地域の催し物や会議への参加、幼稚園、小中学校との交流学习に認知症カフェ等、様々な機会を通じて、地域交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染予防対策により現在自粛となっているが、認知症カフェや小中学校の交流学习等、地域会議への参加を通じて、事業所の特色を活かしながら、認知症への理解が地域全体で深めて頂けるよう発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス流行により、現在、書面での報告となっているが、ご家族様をはじめ、地域住民の方々や市の職員、包括や福祉委員の方々等のご協力のもと、当事業所の取り組みや状況報告を通じてサービス向上に繋げている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での報告書の他、日頃から電話やメール等を通じて相談させて頂き、運営において丁寧なアドバイスを戴ける関係性が出来ている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の休憩室に、身体拘束に関する具体例についての貼り紙を掲示し、普段から目につくような環境を作り、職員の意識を高めている。また、身体拘束に関する研修の参加や、事業所内での勉強会を行い、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。玄関の施錠については、交通量の多い道路に面しているため、他事業所と共有し行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する事業所内での勉強会の開催や研修への参加により、職員が自身の対応を振り返る機会を設け、虐待に対する意識を高め、見過ごされることがないように努めている。		

グループホーム共栄の郷

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(うらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用して支援に繋がっている利用者様もあり、また研修等で権利擁護に関して学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や契約内容に変更があった際には、都度、運営規定や重要事項説明書等を用い、分かり易く説明出来るよう対応しており、疑問や不明点等があった際には、しっかりとお答えし安心して利用して頂けるよう取り組んでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所の入り口にご意見箱を設置する他、年に1度アンケート調査を行い、事業所に対するご意見等を頂く機会を設けている。アンケート結果は職員間で共有し、今後のサービスに反映している。また、運営推進会議にてご家族様や運営推進委員の方々にも報告を行っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングの他、年に2回の個人面談を行い職員個々の職務や運営に関する意見を聞く場を設けている。また、現場業務にも積極的に入り、日頃から職員と気兼ねなく意見交換が行える環境が整っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事とプライベートの切り替えができるよう、それぞれの生活スタイルに合った勤務体制や給与水準に関する相談を日頃から行い、調整を図っている。また、各職員の得意分野に目を向け、それぞれが活躍できる場を設け、仕事に対するやりがいに繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内、外部研修の参加を職員に対して積極的に働きかけ、シフト調整や法人での費用負担等を行い、受講し易い環境を整えている。また、事業所内での勉強会の開催や日頃から各職員の力量を見極め、様々な経験を通して日々成長できる機会を持ち、育成にも努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染予防交流を図っている。特に、市内のGHとは定期的に情報や意見交換を行い、それぞれの事業所で抱えている悩みや相談事を共有し、互いにサービスの質の向上に取り組んでいる。今後、ZOOMでのリモート会議を予定している。		

グループホーム共栄の郷

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(うらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様と面談を行い、健康状態やADLの確認、現在の困り事などを傾聴した上で事前にスタッフ間で情報共有を行い、安心して入居して頂ける環境を整えている。入居直後もコミュニケーションの機会を多く持ち、関係性が築けるよう取り組んでている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、ご家族様の不安や心配事を十分にお聞きすると同時に、センター方式の様式をお渡しし、ご本人様の嗜好や生活歴について振り返って頂く機会を持ち、スタッフと情報を共有することで共に支える第一歩としている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談や施設見学の段階で、ご本人様やご家族様の不安や困り事に耳を傾け、最善な選択に繋がるよう、他のサービスを提案を含めアドバイスさせて頂く事もあり、選択の幅を広げた上で、ご本人様やご家族様に自己決定して頂けるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃からご本人様の出来ることを見極め模索し、スタッフと共に生活を送る中で、互いに支え合う関係性の構築に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様にも協力を仰ぎながら、面会時等にはご本人様の好きな物を持参して頂き、入居しても好ましいと思える物事に触れられる環境作りをお願いしている。また、ご本人様がご家族様の事について不安に感じている時は、必要に応じて連絡の機会を設け、ご本人様が安心出来る対応をお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人の方との面会や電話、手紙等関係性が継続できるよう支援に取り組んでいる。感染予防対策により現在は自粛して頂いているが、ご家族様の協力のもと、墓参りやご自宅への外出、外泊等、馴染みの場に出向けるよう支援を行っており、今後、感染状況に応じ再開を検討している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や共通性を理解した上で、家事やレクを通じて入居者様同士が関わり合えるよう支援している。また、認知症状の進行により上手く会話が噛み合わない場合は、スタッフが早い段階で介入し良好な関係作りを支援している。		

グループホーム共栄の郷

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(うらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了後も、相談事等があればいつでも対応出来る旨をお伝えし、今迄の関係性が途絶えないよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃、ご本人様の言動から思いや意向を汲み、支援に努めている。意思表示がが困難な場合には、今迄の生活背景やご家族様からも情報をヒントに、利用者様本位のケアに繋がるよう取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面談の他、ご家族様や入居前に利用していたサービスの関係者等から頂いた生活歴や入居までの経緯を共有している。入居してからも、ご本人様との会話や若い頃の写真等から今までの生活状況を得よう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月の定期受診の他、日頃の様子や活動状況を観察し、特記事項や気付いた点はプランの評価欄に記入し、職員間で情報共有と把握に努めている。また、気があれば日常的に意見交換も行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	今までの生活歴からご本人様のやりがいや大事にしている事を軸に、日頃のケアでの経過や気付き等を都度、記録やケアプランの評価欄に全職員で記載し、それを基に出た意見やアイデア、また面会時等で得たご家族様からのご意見を反映し、現状に即したプラン作成を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	現行のプランで支援を行った上での経過や気付き等を都度、記録やケアプランの評価欄に記載し、それを基にカンファレンスを開き意見交換で出た情報を集約し、プランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに応じて、必要書類の手続きの代行や買い物、受診支援を行い、心身状態の変化には、主治医や非常勤のNS、併設事業所の機能訓練指導員からも協力を仰ぎ、柔軟性を持って、幅広いサービスが提供出来るよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染予防対策により自粛しているが、地域の催し物や小学校、中学校との交流学习の受け入れ等、地域社会と触れ合い、楽しみを持ちながらQOLの向上を目指している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回主治医のもとでの定期受診、また状況が変化した際には24時間体制で指示が受けられる体制が整っている。ご本人及びご家族様の意向を尊重した上で、かかりつけ医以外の受診代行や往診の支援も行っている。		

グループホーム共栄の郷

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(うらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化や気になる点が見られた際には、かかりつけ医の看護師若しくは非常勤の看護師に相談と指示を仰ぎ、適切な受診支援や処置対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	看護添書や介護添書をもとに情報交換を行い、添書では補えない点は直接、電話等でやり取りを行っている。早期退院に向けて、入院後の経過をこまめに確認し、早期退院に向けて連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の時点で、重度化に対する指針についての説明を行い、入居後はご本人様の体調変化や認知症の進行に応じて、都度、ご家族様に現状報告と今後の方向性について話し合いを持ち、ご本人様とご家族様のご意向を確認した上で対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時に備え、連絡網や入居者様の十分な情報が迅速に提供できるように傷病者情報を用意している。また事業所内で勉強会を開き、実践力を身に付け備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中と夜間を想定した避難訓練を実施し、火災や地震を想定した訓練を併設事業所と共に行っている。コロナ禍以前は、ご家族様、地域住民の方にもご参加して頂き協力体制を築いており、今後、感染状況に応じ参加の要請を検討している。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修会や勉強会等で自身の対応を振り返る機会を持ち、利用者様個々の人格を尊重し、声掛けや関わり方等相手の立場に立ったケアを心掛け実践している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の意思を尊重し、意思表示や自己決定がし易い言葉掛けを心掛けている。入浴支援や活動の参加等ご本人様の意思に委ねる他、日頃の言動から希望を汲み取り、支援に反映できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	気持ちが落ち着かない時や体調にが優れない時等、無理なく過ごせるようにご本人様のペースに合わせ、臨機応変に対応を行っている。生活歴や今までの習慣にも着目し、支援の参考にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様からの希望があった際には、化粧品の購入を行いおしゃれを楽しめるよう取り組んでいる。2か月に1度訪問美容での散髪も定期的の実施している。可能な方は、入浴後、ご自身でヘアセットをお願いしている。		

グループホーム共栄の郷

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(うらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食では、入居者様が食べたいメニューを提案。出前の活用やおやつに季節の果物を提供する等、食事を楽しめる機会を設けている。盛り付けや片付け等、台所仕事にも参加して頂き様々な方向から食事に関わる機会を設けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人様の咀嚼力、嚥下機能に応じた食事形態で提供し、必要な栄養や水分量の確保に努めている。器や盛り付け方等職員間で意見を出し合いながら工夫を重ねている。栄養が不十分な方は、栄養補助食品や補食を取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に合った、ケア方法や義歯洗浄の管理を行う他、訪問歯科による定期検査や随時、必要に応じた治療を行い、口腔環境の維持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位が取り難い方に対しては、職員複数名で介助で行い、トイレでの排泄が継続できるよう支援している。また状況に応じて、使用パットのサイズダウンや紙パンツから布パンツへの移行にも取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を活用しながら、日々の水分量の管理や整腸剤の導入、トイレ時は長めに腰を掛ける時間を持つ等、様々なアプローチを実践。ご家族様にも情報を共有し、乳酸菌飲料をご用意して頂くこともある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の好みの温度や色々な種類の入浴剤を取り揃える等、入浴を楽しめる様配慮している。利用者様全員が週2回以上入浴が行えるよう取り組み、入浴に抵抗がある方は、声掛けの工夫の他、入浴時間や対応する職員を変更する等柔軟に対応。同姓介助にも対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の体調に応じて、リビングで過ごす時間を設けると同時に休息時間も適度に取り等して、身体に負担が掛からないよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬情ファイルを作成し、いつでも服薬状況が確認できるようになっている。また、状況変化に応じて職員間で服薬内容を検討し、医師への相談を行いながら、適切な服薬支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の性格や生活歴をヒントに日常生活内での役割の提案やご家族様にも協力を仰ぎ、ご本人様の好きな物を持参して頂き、入居後も好ましいと思える物事に触れられる環境作りを目指している。毎月、行事や誕生会も開催している。		

グループホーム共栄の郷

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(うらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染予防対策により現在、十分に外出が行えていない状況になっている。コロナ禍前は毎年5～9月の期間、毎月外出行事を設けており、今後、感染状況に応じ外出行事を再開していけるよう検討している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を所持している方はおらず、施設で管理している状況。個人のお小遣いから希望に応じて日用品やおやつを購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方には、使用方法を援助しながら馴染みの方と連絡が取れるよう支援している。行事で暑中見舞いを書きご家族へ送る機会を設ける等、手紙のやり取りが出来るよう取り組んでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に共有スペースのリビングは居心地の良い空間づくりに努めており、尚且つ感染症予防対策により換気や消毒に配慮しながら安全な環境作りにも努めている。台所には定期的に衛生チェックが入り、清潔面に十分注意している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブルを囲んで皆さんとの会話や活動を楽しんだり、ソファで寛ぎながらテレビを鑑賞したりと思い思いに過ごせる環境となっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、今まで使い慣れた家具や小物等を持ち込み、慣れ親しんだ物に囲まれて生活が送れるよう工夫している。中には好きな音楽のCDを持ち込み、お部屋で流す等居心地の良い居室環境を目指している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ニーズに応じ介護用品を活用する等してADLの自立を促す他、フロア内の廊下を利用して歩行訓練を実施している。居室前に表札を掛け、トイレは分かり易く表示し個々が認識でき自立した生活が送れるよう工夫している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム共栄の郷

作成日：令和 5年 4月 10日

市町村受理日：令和 5年 4月 10日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	冬季に災害が発生した場合の防寒対策や職員の対応力の向上等、施設内における備蓄品や防災対策において改善の余地がある。	いかなる状況で災害が発生した場合でも、より安全に避難ができるよう備蓄品の充実と施設内の安全対策の強化、職員の対応力の強化を図る。	・避難経路及び施設内の危険箇所の確認 ・防災備蓄品の在庫確認と必要物品の購入 ・災害時の防寒対策の整備 ・職員の防災訓練の受講	2年間
2	6	ご家族様のご意見やご要望が一目で分かる書面ような工夫がされていない。	ご家族様のご意向やご要望が職員全体で共有できるよう工夫を図り、サービスの向上を目指す。	・ご家族様のご意見やご要望は支援経過に記載し、且つ一目でわかる様に文字の色を変えたりマークを付ける等工夫する。 ・年に1度の事業所アンケートの内容が例年同じ内容の為、職員が聞き取りたい内容に変更する等よりアンケートを有効活用していく。	1年間
3	4	運営推進会議が現状、書面上での開催となっており、ご家族様及び運営推進委員の方々のご意見等を反映できておらず、情報提供のみとなっている。	ご家族様や運営推進委員の方々の意見を集約し、運営推進会議の内容に反映できるよう取り組む。	・運営推進会議の報告書にご意見等が記載できるような書面を添付し、意見が集約できるよう工夫する。 ・以前、会議の中で勉強会を開催しており、書面上での開催が続く場合は、報告書の中にグループホームとして役立てる情報を添付し、より報告書の内容を充実させる。	1年間
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。